



まさこ ひであき

## 真砂 秀朗 (インディアンフルート・バンスリ・ムビラ)

1952生まれ。世界各地のネイティブカルチャーへの旅の中で出会った楽器を演奏しつつ、独自の音楽を制作し、同時にヴィジュアルアートの分野で活動しているアーティスト。1991年、地球に生きる人のアイデンティティをテーマにAWAレーベルを発足させ、「しおのみち」「弓の島」「しおのみちの巻」などのCDをプロデュース。1992年チャコキャニオンをはじめ、アメリカ西部への旅で深い感銘を受け、度々訪れ、その体験からインディアンフルートを中心に新たな表現が始まる。1995年ソロアルバム「Chaco Journey」を発表。また、インディアンランドの印象を表現する音と絵の個展「たまたた」を開催。その後「PLANET LOVE」「Colors in the Wind」などのソロアルバムや、ピアニストのウォン・ウィン・ツァンとの共演による「Amazing Blue」、石垣金星、遠藤晶美と共演の「真南風」、再びウォン・ウィン・ツァンとの「Great Mystery」など、様々なミュージシャンとのコラボレーションを重ね、数々のアルバムをリリース。映画「ガイアシンフォニー第5番」に「真南風」から2曲がフィーチャーされている。ヴィジュアルアートの領域では、毎年佐渡で開催される「Earth Celebration」のアートワークや水彩画、版画の展覧会、絵本などにおいて制作活動をしている。出版活動としては「ライオンのうた」(テン・ブックス)のプロデュース、著書に「レインボーブック」シリーズ(ミキハウス)「星の神話さがし」(テン・ブックス)がある。

真砂 秀朗ホームページ [www.awa-muse.com](http://www.awa-muse.com)

## 共演者プロフィール

ながみ ゆきたか

### 永見 行崇 (ピアノ・シンセサイザー)

1972年生まれ。5歳の頃からクラシックピアノを習い始めるが、後にセロニアス・モンクのプレイに興味を持ち、ジャズに目覚める。大学在籍中から福岡を中心に様々なユニットで活動を開始。1998年渡米し、ピアノをバリー・ハリスに師事。帰国後、藤山英一郎(Ds)と「FANAWANA」を結成。その後セネガルに滞在し、サバル(打楽器)の第一人者であるドゥドゥ・ンジャエ・ローズ氏に師事する。またバラファン(ガーナの木琴)もプレイするなど、アフリカ音楽にも精通している。2001年4月からは劇団四季主催のミュージカル「ライオンキング」にパーカッションリストとして出演。現在、ピアニスト・パーカッションリストの二足のわらじを縦横無尽に行き来する希有なプレーヤーとして、Gyaay Rose、MONGO'X、National Jam's、真砂秀朗、築紫寿楽など、数々のセッションで活動中。

やまむら せいいち

### 山村 誠一 (パーカッション)

1960年生まれ。80年代からラテン・ジャズ・ワールドとBEATを渡り歩き、様々な打楽器を使い情景を奏でるスタイルを模索。90年代に入りスティール・パンを手にし、ミュージシャンとしてのベクトルを決定つけた。過去にアルバム5枚を発表。ソロアルバムや押尾コータローとのDUOアルバムからは、CMや番組テーマ曲などで使用されている。1999年、劇団四季ミュージカル「ライオンキング」にパーカッション奏者として出演。2001年びわ湖アジア芸術文化祭「西遊記」の作曲、2003年「第三回世界水フォーラム」の音楽監督などジャンルを超えた舞台も創造。現在、多種多様なステージパフォーマンスや、年間100曲余りのスタジオワーク、コンサートのプロデュースや楽器作り、リズムのワーク・ショップなど幅広く活躍している。



虹が見えたなら  
こころ空と結ばれたなら  
みんなみんな  
連なってるよ

絵と詩 真砂秀朗作「星の神話さがし」TEN BOOKSより

## インディアンフルート:



インディアンフルートは北アメリカの先住民達に永く伝わる楽器で、多くの部族の神話の中でも「ココペリという精霊が笛を吹くと、大地に草木が生えた」という逸話があるように、彼らの文化において笛という楽器のもつ意味は大きい。儀式のときや自然と向き合うとき、また、男性が女性に愛を打ち明けるときなどに笛を吹いた。近代になってネイティブアメリカンの文化が見直されるにしたがって、専門の楽器職人も現れるようになり、楽器として完成されてきた。